

デジタル化に向けた取組み

田辺区

田辺区の概要

▶ 田辺区の範囲

北は、木津川

東は、近鉄京都線

南は、国道307号

西は、山手幹線、天津神川

※山林については、国道307号以南

▶ 土地利用

○戸建て住宅

旧村集落・小規模開発地

○集合住宅

ファミリー向け・学生向け

○商業施設

○農地

○山林

○共同墓地

▶ 人口と世帯数

▶ 田辺区の区域内世帯数 2,248世帯

▶ R6会員数 1,109世帯

▶ 加入率 49.3%

▶ 加入事業所数 約120事業所

田辺区の運営

▶ 役員体制（役員会：議決機関）

区長、副区長、会計、会計補佐、事務長、顧問、参与
ブロック担当役員（15名）

総務部、福祉部、環境部、文化体育部、墓地管理部

▶ 班長 114名

▶ 役員会等の開催

部長会議（1回／月）

総務部会議（1回／月）

役員会（2回／月）

班長集会（2回／年）

▶ 情報伝達手段

回覧板

▶ 公民館の維持管理方法

総務部役員5名が当番制で施錠解錠

事務長が紙ベースで貸館の事務処理

▶ 課題

区会員の加入率の低下

高齢者世帯の増加（災害時の対応）

役員のなり手不足、負担軽減

公民館の維持管理の効率化

共同墓地の維持管理

※サラリーマン世帯、農家世帯、商業者など多様な世帯が混住

令和6年度における デジタル化に向けた取組み

▶ 取組み経過

1. 先進事例の調査（先進事例視察）

※ 次ページ参照

2. デジタル化研修会とアンケート調査の実施を決定（役員会）
3. アンケート調査実施（全会員対象）
4. アンケート調査結果データ入力委託（シルバー人材センター）
5. アンケート結果分析と報告書作（総務部）
6. デジタル化の方向性確認（役員会）
7. アンケート調査結果報告書全戸配布

▶ 経費

アンケート調査票作成消耗品費

■ 円

アンケート結果データ入力委託費

■ 円

調査結果表の印刷製本委託費

■ 円

合計 ■ 円

先進事例の調査を受けて

- ▶ 区3役が、先進自治会の取組みを視察し、今後の田辺区の運営にアプリの導入をはじめとしたデジタル化の必要性を認識。



- ▶ しかし、田辺区は一般家庭、単身世帯、高齢者世帯など多様な会員で構成されており、どの程度の会員が対応できるのか。また、区の運営の効率化が図れるのか、費用対効果が不透明。



- ▶ 会員のスマートフォン保有状況や日常生活でのメールなどの使用状況、さらにはデジタル化に向けた意向を把握することが先決。



- ▶ 全会員を対象にアンケート調査を実施し、スマートフォン保有状況やデジタル化への意識を調査することが必要。

取組みの成果と今後の課題

▶ 令和6年度取組みの成果

区会員へのスマートフォンの普及状況やデジタル化への関心度が把握できたことで、スマートフォンアプリの導入など、デジタル化を検討する範囲など、デジタル化に向けてデータが整った。



デジタル化する具体的な内容の範囲等について検討を続け、自治会支援アプリの早期導入を目標に進める。

▶ 今後の課題

- ◆ 役員向けのデジタル化研修会実施などにより、デジタル化担当役員の育成。
- ◆ デジタル化を担当する役員の継続した配置（デジタル化委員会の設置）
- ◆ 財源の確保（※ 特に、補助制度の継続など、市の支援が必要）
- ◆ デジタル化の必要性について、会員へのさらなる浸透

アンケート調査と結果

田辺区の運営と公民館維持管理のデジタル化に向けたアンケート

該当する番号に○を入れてください。

ブロック 班

世帯主の年齢

1 20代、 2 30代、 3 40代、 4 50代、 5 60代、 6 70代、 7 80代、 8 その他、

世帯構成

1 一般世帯、 2 高齢者のみ世帯、 2 単身者世帯、 4 高齢者単身世帯、

1 世帯主は、スマートフォンを持っていますか。

1 はい、 2 いいえ、

2 同居家族(世帯主含む)にスマートフォンを持っている人がいますか。(世帯主含む)。

1 はい、 2 いいえ、

3 ふだんの生活でメールやLine を利用していますか。(同居家族含む)。

1 はい、 2 いいえ、

4 区のお賞物に目を選んでいますか。

1 はい、 2 関心があるものだけ見る、 3 見ない、

5 区の行事等に参加していますか。

1 積極的に参加している、 2 あまり参加しない、 3 ほとんど参加しない、

6 区の公民館を利用していますか。

1 よく利用している、 2 あまり利用しない、 3 ほとんど利用しない、

7 デジタル化は、区の活動や会員への情報提供、災害時の連絡に役立つと思いますか。

1 はい、 2 いいえ、

8 田辺区として、デジタル化を積極的に進めるべきだと思いますか。

1 はい、 2 いいえ、

9 デジタル化は、区役員の負担軽減につながると思いますか。

1 はい、 2 いいえ、

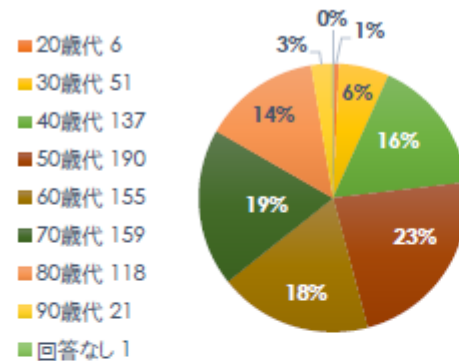
10 自治会役員になることを負担に思いますか。

1 はい、 2 いいえ、

アンケート調査の対象と回収率

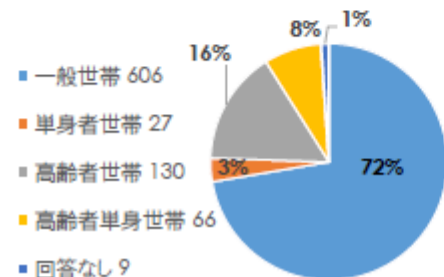
区会員総世帯数	1,109
調査票回収数	838
調査票回収率	75.6%

○ 田辺区会員世帯主の年齢構成(調査票を回収した世帯)



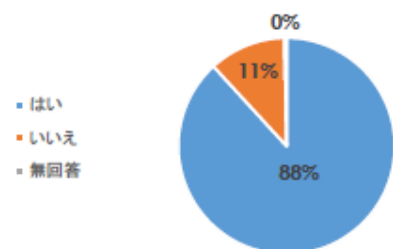
回答者の年代別内訳をみると、40歳代から80歳代までほぼ平均分布しており、田辺区は幅広い年齢層の会員で構成されていることがわかります。

○ 田辺区会員の世帯構成(調査票を回収した世帯)



回答者の世帯構成をみると、72%が一般世帯となっています。また、24%が高齢者世帯であり、そのうちの3分の1が高齢者の単身世帯となっています。

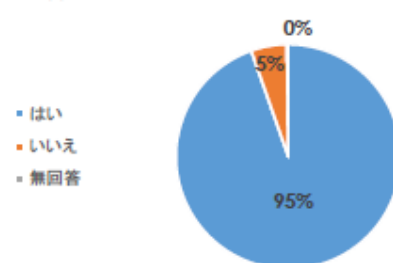
1. 世帯主は、スマートフォンを持っていますか



※コメント欄は、クロス集計等により、アンケート結果を分析した内容を記しています。

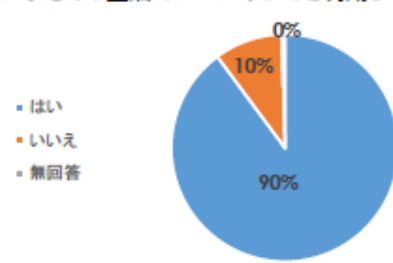
世帯主の88%がスマートフォンを持っています。
60歳以下の世帯主は、ほぼ全員がスマートフォンを持っています。
そのほか、70歳代では84%、80歳代では52%、90歳代では33%の世帯主がスマートフォンを持っています。

2. 同居家族(世帯主含む)にスマートフォンを持っている人がいますか



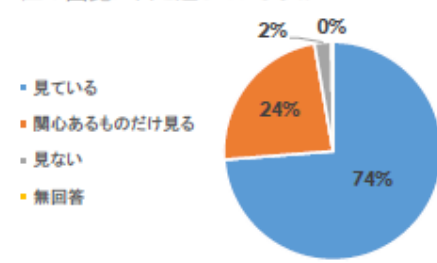
全体では、会員世帯の95%がスマートフォンを所有しています。
世帯主が60歳代以下の家庭では全家庭がスマートフォンを所有しています。
一方、世帯主が70歳代の家庭では94%、80歳代の家庭では83%、90歳代の家庭では62%がスマートフォンを持っています。
これにより、かなりのスマートフォン普及率が示されています。

3. ふだんの生活でメールやLineを利用していますか



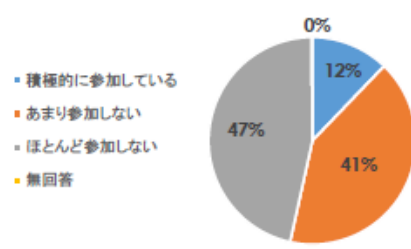
世帯主が20歳代から40歳代の世帯では、全世帯が日常生活でメールやLineを利用しています。
そのほか、70歳代では89%、80歳代では64%、90歳代では62%の世帯が日常生活でメールやLineを利用しており、高齢になるにつれてその利用率が減少しています。

4. 区の回覧に目を通していますか



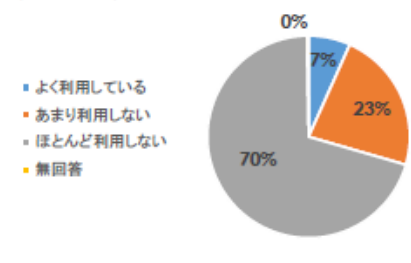
回覧は、「関心があるものだけを見る」を含めると、田辺区会員のほぼ全世帯が回覧を確認しています。
このことから、現在、回覧が重要な情報伝達手段であることがわかります。一方で、回覧を見ない世帯(2%)の内訳を見ても、特に年齢的な偏りはありません。

5. 区の行事等に参加していますか



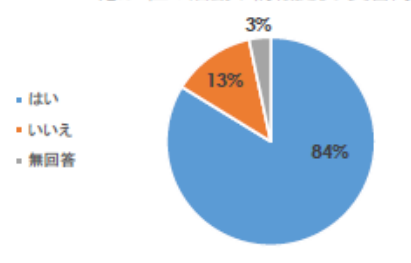
区の行事等に積極的に参加している会員は全体の12%に過ぎないことがわかります。
「積極的に参加している」と回答した内訳をみると、30歳代では24%、40歳代では23%、50歳代では11%、60歳代では7%、70歳代では9%、80歳代では10%となっています。
今後、会員の声を聴き、行事の内容や周知方法を検討することが求められます。

6. 区の公民館をよく利用していますか



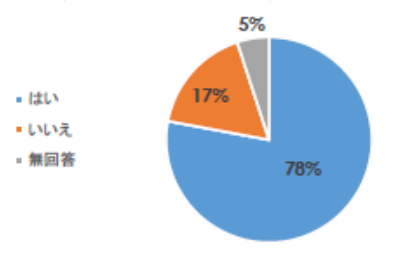
区公民館については、「よく利用する」が1割に満たないことから、会員の利用頻度が非常に少ないと言えます。
「よく利用している」と回答した内訳をみると、30歳代は8%、40歳代は9%、50歳代は4%、60歳代は6%、70歳代は8%、80歳代は9%となり、どの年代においても利用率が低く、特定の会員が利用していると推測されます。

7. デジタル化は、区の活動や情報提供、災害時に役立つと思いますか



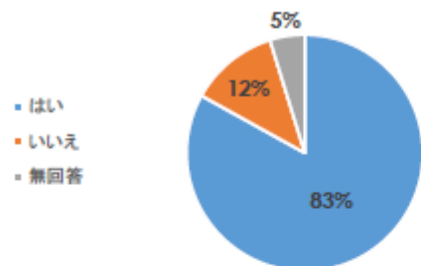
回答者の84%が、デジタル化は区の活動や情報提供、災害時に役立つと考えています。
一方、否定的な考えを持つ回答者を年代別に見ると、40歳代では6%、50歳代では8%、60歳代では11%、70歳代では15%、80歳代では30%、90歳代では33%の回答者がデジタル化のメリットに対して否定的な考えを持っています。

8. 田辺区として、デジタル化を積極的に進めるべきだと思いますか



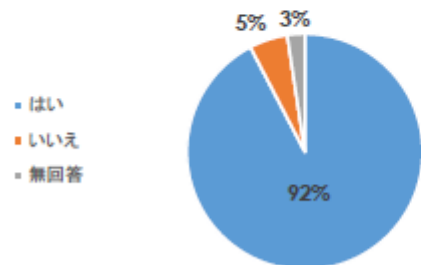
回答者の78%が「デジタル化を積極的に進めるべき」と考えています。
一方、否定的な考えを持つ回答者を年代別にみると、30歳代では6%、40歳代では8%、50歳代では13%、60歳代では15%、70歳代では23%、80歳代では32%、90歳代では38%の会員がデジタル化に否定的な考えを持っています。

9. デジタル化は、区役員の負担軽減につながると感じますか



回答者の83%が「デジタル化は役員の負担軽減につながる」と考えています。一方、「負担軽減につながらない」と考える回答者を年代別にみると、30歳代では4%、40歳代では8%、50歳代では9%、60歳代では12%、70歳代では16%、80歳代では20%、90歳代では14%となっています。

10. 自治会役員になることを負担に感じますか



ほぼ全回答者が、自治会役員になることを負担に感じています。「負担に思わない」と考える回答者を世代別にみると、20歳代は17%、30歳代では0%、40歳代で7%、50歳代で7%、60歳代で4%、70歳代で4%、80歳代は7%と、年齢的な偏りはないことがわかります。このことから、回覧物の配付や募金等への協力依頼、区行事への動員など、今後役員の負担軽減につながる取組みが必要といえます。

【調査結果】

調査の結果、回収率が75%ですが、幅広い年齢層で構成される田辺区の会員においても、スマートフォンの普及が進んでいるといえます。また、「デジタル化が区の活動等に役立つ」「デジタル化を積極的に進めるべき」「デジタル化が役員の負担軽減につながる」といった意見が多いことから、田辺区として会員の声に応えるデジタル化を進める必要があると考えます。アプリ等を導入した場合、会員のスマートフォン保有状況を踏まえ、多くの会員に情報をリアルタイムで発信することができるほか、災害時には安否確認も可能になります。スマートフォンを持たない会員にも、アプリ登録者から口コミで情報が拡散されることから、情報発信や役員間の連絡、安否確認といった面で、区の運営上大きな効果が期待できます。特に、高齢者の単身世帯も多いことから、災害時の安否確認などが役立つと考えられます。そのほか、ほとんどの会員が役員になることを負担に感じており、公民館の利用率も低いことから、デジタル化によって区運営の効率化や役員の負担軽減、さらには会員が利用しやすい公民館を実現するために、貸館と維持管理の方法を工夫する必要があります。

【今後のデジタル化の進め方】

現在、田辺区では総務部役員にパソコン端末を貸与し、会議資料の作成や区会計の帳簿管理、墓地使用者の管理などを通じて、データの共有化を進め、区の運営を行っています。今後、公民館のWi-Fi接続環境の整備やプロジェクターの活用を進めることで、会議のペーパーレス化などによる運営の効率化や経費の節減に向けた取組みを順次進めてまいります。さらに、アプリの導入などを通じて、災害時における会員の安否確認や情報伝達、回覧の電子化、役員間の連絡体制の構築、公民館の利用申請や空き情報の確認、スマートロックによる公民館の管理など、可能な範囲で取組みを進めることで、会員にとってメリットのある田辺区の運営と役員の負担軽減につながるようにデジタル化を推進してまいります。